

安藤明之教授の退任記念号に寄せて

安藤先生の最終講義が2月22日、E203教室で行われました。土曜日なのどかな午後です。200席ほどの教室はほぼ満席。大勢の人が駆けつけました。経営学部のゼミも持たれていたことも加わり、顔ぶれも多彩です。

講義の表題は「日本の情報戦略とグローバル化」。開口一番、「私は、高いところから話すのは好きではないので」と、教壇をいったん降りられました。冒頭から、安藤先生の教育観があふれていました。その後、パソコン操作の都合で高みに戻らざるを得なく、さぞかし不本意だったのではないのでしょうか。

講義は、表題こそ控えめでしたが、実際の内容は最初から最後まで過激そのもので、安藤先生の真骨頂を見る思いでした。内向きの日本を憂い、戦略なき大ガラパゴス、それが日本である、と強調され、次世代へのメッセージで締めくくられました。

安藤先生は、この日まで、学内で多くの役職と授業をこなされ、教育面ではとりわけ情報教育と社会調査教育を牽引されてきました。加えて、学生との交流にも力を注がれてきました。先生のもとには留学生はじめ大勢の学生が集まり、研究室はかれらとの談笑の場でもありました。

学生委員長を経て学部長、と同じ経歴を後追いしてきた私にとって、先生は範であり続けました。今でも、安藤先生だったら、どうされただろうと思うことが少なくありません。

日本最初のコミュニケーション系学部として誕生した東経大コミュニケーション学部も本年、創立20年を迎えます。創設以来かかわってこられた先生にとっても感無量ではと推察いたします。

安藤先生ながらくありがとうございました。コミュニケーション学部一同、お礼を申し上げます。

2015年2月

コミュニケーション学部長 川浦康至